1 導　入編

Expressサーバや添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

Expressサーバの特長

お買い求めになられたExpressサーバの特長を次に示します。

高 性能

- Intel® Xeon™ Processor MP搭載
  - N8100-757: 1.40GHz/512KB
  - N8100-758: 1.50GHz/512KB
  - N8100-759: 1.60GHz/1MB
- 高速メモリアクセス(DDR200規格インターリーブ方式)
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(1Gbps/100Mbps/10Mbps対応x1(ポート2)、100Mbps/10Mbps対応x1(ポート1))
- 高速SCSIアクセス(Ultra 160 SCSIx2)

高 信頼性

- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出)
- メモリ/CPU縮退機能(障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し)
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常通知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- 電源ユニットの冗長機能(ホットスワップ対応)
- ディスクアレイ(オプションでサポート)
- オートリビルド機能(ホットスワップ対応)
- BIOSパスワード機能
- フロントベゼルによるセキュリティロック

管 理機能

- ESMPROプロダクト
- MWA(Management Workstation Application)
- ディスクアレイユーティリティ(数種類)

保 守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

省 電力機能

スリープ機能(Windows 2000のみ)

拡 張性

- 豊富なIOオプションスロット
  - 32-bit・33MHz PCIバス: 2スロット
  - 64-bit・100MHz PCI-Xバス: 6スロット(このうち4スロットはホットプラグ対応)
- 最大12GBの大容量メモリ
- 最大4マルチプロセッサまでアップグレード可能
- リモートパワーオン機能
- 豊富なSCSI装置の接続パターン
- 標準で最大5台、増設HDDケージを搭載すると最大10台のハードディスクドライブを搭載可能(ホットスワップ対応)
- USB対応(Windows NT 4.0では対応したドライバが必要)
- タワータイプからラックマウントタイプへのコンバーチブル可能(N8143-33 ラックコンバージョンキットが必要)

す ぐに使える

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版インストール済み(ビルド・トゥ・オーダーの場合)
- ハードディスクと電源ユニットはケーブルを必要としないワンタッチ取り付け(ホットスワップ対応)

豊 富な機能搭載

- グラフィックスアクセラレータ「RAGE XL」採用
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチマスク
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- インテリジェント・プラットフォーム・マネージメント・インタフェース(IPMI)
- ベースボード・マネージメント・コントローラ(BMC)
- コンソールレス機能

自 己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ

便 利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)
- SCSI*Select*(SCSIデバイスユーティリティ)

Expressサーバでは、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。
各種リソースの冗長化や、ディスクアレイなどといったハードウェア本体が提供する機能と、サーバ本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止または早期に復旧することができます。
また、停電などの電源障害からサーバを守る無停電電源装置、万一のデータ損失に備えるためのバックアップ装置などといった各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。
各機能はそれぞれ以下のハードウェアおよびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent MWA(Management Workstation Application)
ストレージ管理 ● ディスク管理	ディスクアレイコントローラ*	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent Power Console Plus GAM(Global Array Manager)
● バックアップ管理	DAT/DLT/AIT/LTOなど*	NTバックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)*	ESMPRO/UPSController* PowerChute *plus** (注) 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボード	ESMPRO/Netvisor*

*　オプション製品

サーバ管理

Expressサーバはシステムボード上に標準でシステム監視チップを搭載しており、サーバに内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とExpressサーバ管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、サーバの稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。

監視対象	機　能
CPU	マルチプロセッサ構成時におけるCPU故障時の縮退機能／稼動監視機能、CPU負荷率の監視機能／高負荷の予防機能
メモリ	メモリ故障時の縮退運転機能、ECCメモリビットエラー検出／訂正機能、メモリ使用率の管理機能
冷却ファン	ファン稼動状態の監視機能
電源ユニット	電源ユニット状態監視機能
温度	温度監視機能、温度異常時の起動抑止／停止機能
電圧	電圧監視機能、電圧異常時の起動抑止
オペレーティングシステム	ウォッチドッグタイマによるOSストール監視機能
サーバ電源	電源スイッチOFFによるシャットダウン機能、シャットダウン後の自動電源OFF

また、MWA(Management Workstation Application)により、サーバ上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、リモートのPC上からExpressサーバの電源を投入したりすることができます。

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、MWA(Management Workstation Application)は、Expressサーバに標準で添付されています。
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるExpressサーバを管理するために次の点について留意しておきましょう。

ディスク管理

ハードディスクの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。Expressサーバが提供するディスクアレイコントローラ(オプション)を使用することにより、ハードディスクをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともに、ハードディスクの稼働率を向上することができます。

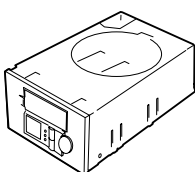
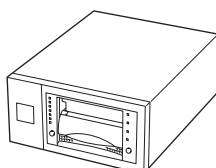
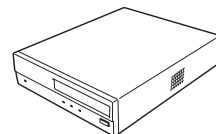
また、Global Array Manager(「GAM」と略します)またはPower Console Plus(AMIディスクアレイコントローラ用管理ソフトウェアです)とESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentとの連携により、ディスクアレイの状況をトータルに監視し、障害の早期発見や予防措置を行い、ハードディスクの障害に対して迅速に対処することができます。

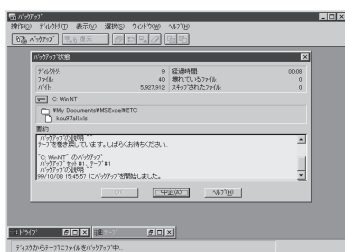
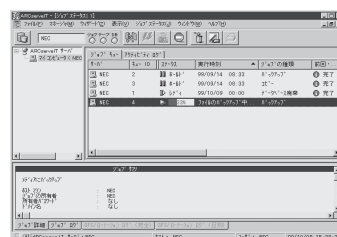
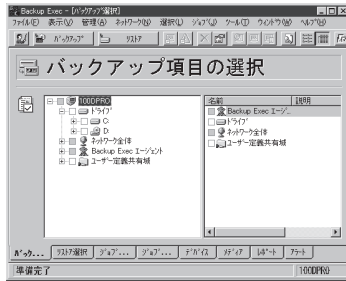
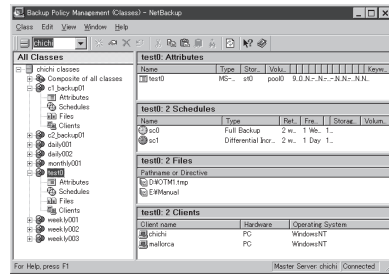
ディスクアレイコントローラの機能	機能の概要	
	Mylexディスクアレイコントローラ	AMIディスクアレイコントローラ
レベル	RAID 0、1、5、0+1の各RAIDレベルをサポート	RAID 0、1、5、10、50の各RAIDレベルをサポート
ホットプラグ	システムが稼働している状態でハードディスクなどのデバイスを交換することができます。	
オートリビルド	故障したハードディスクを新品のハードディスクに交換した後、残りのハードディスクのデータから故障したハードディスクが持っていたデータを自動的に復元します。	
エキスパンドキャパシティ	稼働中のシステムを停止することなくハードディスクの増設をすることにより、ディスクアレイの使用可能領域を自動的に拡張します。	稼働中のシステムを停止することなくハードディスクの増設をすることにより、ディスクアレイの使用可能領域や論理ドライブを自動的に拡張します。

その他、Mylexディスクアレイコントローラ用ソフトウェアとして、自動クリーンアップツール、Array Recovery Tool(ART)も提供しています。
AMIディスクアレイコントローラ用ソフトウェアはPower Console Plusのみです。Power Console Plusは自動クリーンアップツールと一部同じ機能を持っています(ARTと同等の機能はありません)。
ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、Power Console Plus、Global Array Manager(GAM)、自動クリーンアップツール、ARTは、Expressサーバに標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

バックアップ管理

定期的なバックアップは、不意のサーバのダウンに備える最も基本的な対応です。
Expressサーバには、データバックアップ用の大容量記憶装置と自動バックアップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

デバイス名	説明
DAT	高性能、大容量なうえ、標準規格としての互換性も備えており、広く利用されているバックアップメディア。最大12GBのデータバックアップが可能。小〜中規模システム向け。
DLT	最大35GBのデータバックアップが可能。基幹業務等大規模システム向けの高性能バックアップ装置。
AIT	最大25GBのデータバックアップが可能。中規模システム向け。

DAT

DLT

AIT

アプリケーション名	説明
NTBackup(OS標準)	Windows 2000/Windows NT標準のバックアップツール。 単体バックアップ装置に単純なバックアップを行う時に使用。
ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)	国内で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。 スケジュール運用可能。集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
BackupExec(ベリタス社)	米国で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。 NTBackupと同一テープフォーマットを使用。 スケジュール運用可能。集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
NetBackup(ベリタス社)	異種プラットフォーム環境で統合的な制御／管理を実現した、BackupExecの上位レベルバックアップツール。基幹業務など大規模システムまで対応。オープンファイルバックアップ、Disaster Recoveryを標準サポート。DBオンラインバックアップなどに対応可能。

NTBackup(OS標準)

ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)

BackupExec(ベリタス社)

NetBackup(ベリタス社)

電源管理

商用電源のトラブルは、サーバを停止させる大きな原因のひとつです。
停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。
無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等によるサーバの自動・無人運転を実現することもできます。
Expressサーバでは、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)と、APC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、それぞれESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*で管理・制御します。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、Expressサーバに内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。
また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

導入にあたって

Expressサーバを導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

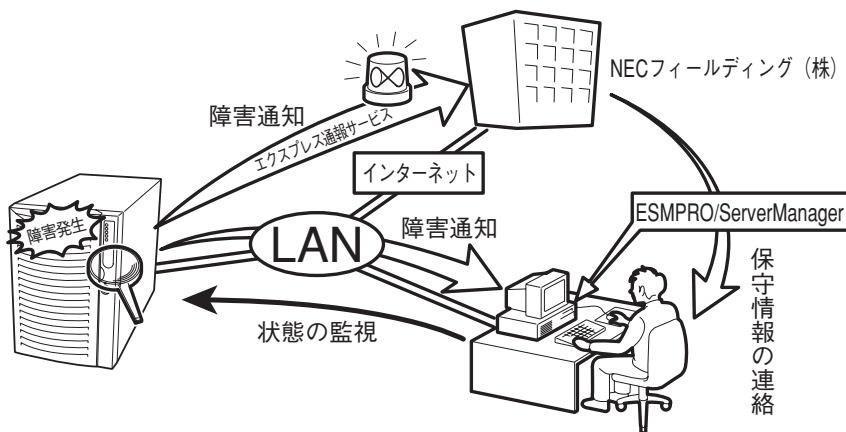
システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

運用方法の検討

「Expressサーバの特長」での説明のとおり、Expressサーバでは運用管理・信頼性に関する多くのハードウェア機能や添付ソフトウェアを備えています。
システムのライフサイクルの様々な局面において、「各ハードウェア機能および添付ソフトウェアのどれを使用して、どのように運用するか？」などを検討し、それに合わせて必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール/設定を行ってください。

稼動状況・障害の監視および保守

Expressサーバに標準で添付された「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。
Expressサーバを運用する際は、「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

なお、Expressサーバに障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。
「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

お買い求めになられたExpressサーバを導入する前に、Expressサーバの出荷時の状態を確認しておいてください。

- **システムやオペレーティングシステムのインストール状態について**

  Expressサーバでは、ご注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

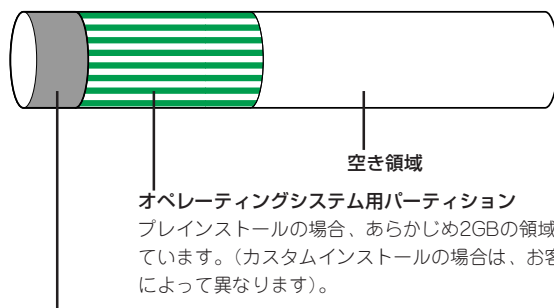
出荷時のモデル	説　明
カスタムインストール	ビルド・トゥ・オーダーにてWindows 2000インストールを指定された場合。
未インストール	ディスクレスモデルを購入され、ビルド・トゥ・オーダーによるOSのインストールを希望されなかった場合。

  出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。14ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

- **パーティション構成について**

  Expressサーバでは、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域(保守用パーティション)が自動的に作成されます。

空き領域

オペレーティングシステム用パーティション
プレインストールの場合、あらかじめ2GBの領域が設定されています。(カスタムインストールの場合は、お客様のオーダによって異なります)。

保守用パーティション(約16MB)
Expressサーバの保守ユーティリティが格納されています。また、EXPRESSBUILDERでのセットアップ時に作業領域としても利用されます。オペレーティングシステムからは「不明な領域」またはドライブレターがアサインされていないボリュームラベル「MAINTE_P」や「EISAユーティリティ」のFATパーティションとして認識されます。

出荷時にオペレーティングシステムがインストールされていない場合は、保守用パーティションは作成されていません。EXPRESSBUILDERを使ってセットアップをすると自動的に保守用パーティションを作成することができます。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、Expressサーバのセットアップは必要不可欠なポイントです。
Expressサーバのセットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。
必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、Expressサーバが提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

1. 運用方針と障害対策の検討

Expressサーバのハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「Expressサーバの特長(2ページ)」に示すExpressサーバのハードウェアやソフトウェアが提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

2. ハードウェアのセットアップ

Expressサーバの電源をONにできるまでのセットアップを確実に行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。
詳しくは、14ページに示す手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺装置の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクのパーティションの設定やディスクアレイの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

<初めてのセットアップの場合>

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、Expressサーバの電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

「未インストール」にて購入された場合は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」が提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用します。シームレスセットアップでは、はじめにセットアップに必要な情報を選択・入力するだけであとの作業はシームレス(切れ目なく)で自動的に行われます。

<再セットアップの場合>

シームレスセットアップを使用してください。煩雑な作業をシームレスセットアップが代わって行ってくれます。

[インストールするOSによってシームレスセットアップの手順が少しだけ変わります]

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版(以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows NT® Server 4.0, Enterprise Edition 日本語版(以降、「Windows NT 4.0 EE」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows NT® Server 4.0, Terminal Server Edition(以降、「Windows NT 4.0/TSE」と呼ぶ)

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

「Windows 2000」、および「Windows NT 4.0」、「Windows NT 4.0 EE」では、ディスクアレイの設定から管理用ソフトウェアのインストールまでの作業をシームレスセットアップが行います。

「Windows NT 4.0/TSE」では、ディスクアレイの設定から保守用パーティションの作成までをシームレスセットアップが行います。以降の作業(OSのインストールや設定など)はマニュアルで行います。詳しくは「マニュアルセットアップ」(52ページ)をご覧ください。

Expressサーバ固有のセットアップは(OSを除く)、シームレスセットアップが代わりに行ってくれます。セットアップでは、シームレスセットアップを利用することをお勧めします。

4. 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows 2000やWindows NTに関しては、本書で説明しています。

5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアや、シームレスセットアップやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、Expressサーバと同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、Expressサーバを管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

6. システム情報のバックアップ

保守ユーティリティ「オフライン保守ユーティリティ」を使ってExpressサーバのベースボード上にある設定情報のバックアップを作成します。ベースボードの故障などによるパーツ交換後に以前と同じ状態にセットアップするために大切な手順です。詳しくは33ページをご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

Expressサーバで障害監視などの運用管理を行うには、Expressサーバに添付されたESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManagerまたは別売の同ソフトウェアが必要となります。
この後で説明するセットアップ手順またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストールおよび必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

サーバ管理機能を利用するにあたって

- CPU/メモリ縮退機能を利用する場合やCPUやメモリを交換した場合は、BIOSのコンフィグレーションが必要です。「システムBIOS(179ページ)」を参照して「Processor Settings」や「Memory Configuration」、「Advanced」の各項目を設定してください。
- サーバの各コンポーネント(CPU/メモリ/ディスク/ファン)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

ストレージ管理機能を利用するにあたって

ディスクアレイシステムの管理を行うには、ディスクアレイコントローラボード(オプション)とESMPRO/ServerAgentに加えて次のソフトウェアが必要です。

- **AMIディスクアレイシステムを使用する場合**
  - Power Console Plusをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Power Console Plus(サーバ)」の説明に従ってPower Console Plus(サーバ)をインストールしてください。
  - Mylexディスクアレイシステム用のArray Recovery Tool(ART)や自動クリーンアップツールは動作しませんが、自動クリーンアップツールと同様の目的の機能がPower Console Plusの機能の一部として提供されています。AMI製ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、本機能も併用されることをお勧めします(オンラインドキュメント「Power Console Plus ユーザーズマニュアル」の「定期的なチェックコンシステンシの実施」を参照してください)。
- **Mylexディスクアレイシステムを使用する場合**
  - GAM Serverをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Global Array Manager(GAM)」の説明に従ってGAM Serverをインストールしてください。
  - Array Recovery Tool(ART)や自動クリーンアップツールを併用することにより、さらに、ディスク稼働率や予防保守性を高めることができます。Mylex製ディスクアレイシステムを構築する際は、ARTや自動クリーンアップツールも一緒にご利用されることをお勧めします。

- **バックアップファイルシステムを使用する場合**

  DAT装置を使用する場合は、クリーニングテープを使って定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。ヘッドの汚れはデータの読み書きエラーの原因となり、データを正しくバックアップ/リストアできなくなります。テープドライブやテープの状態を監視する「テープ監視ツール」を使用することをお勧めします。テープ監視ツールについては「ソフトウェア編」を参照してください。

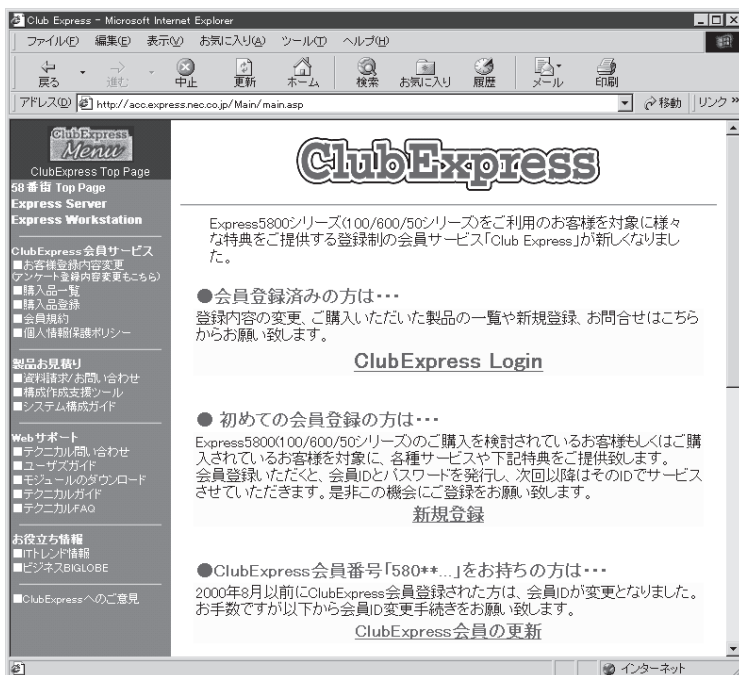
電源管理機能を利用するにあたって

- 無停電電源装置（UPS）を利用するには、専用の制御用ソフトウェア（ESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*）または、オペレーティングシステム標準のUPSサービスのセットアップが必要です。
- 無停電電源装置を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOS（179ページ）」を参照して、「Server」メニューにある「AC-LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressのインターネットホームページ

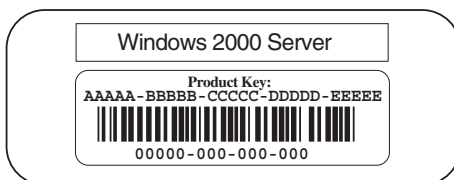
http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。

「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

重要

ビルド・トゥ・オーダにてWindows 2000インストールを指定した場合は、Expressサーバ本体にWindows 2000のプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。Windows 2000のセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーの番号をメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. 本体を設置する。(→77ページ)
2. 別途購入したオプションを取り付ける。(→106ページ)

   ヒント

   Windows 2000/Windows NT 4.0をお使いの環境で次のオプションを増設した場合は、OSの起動後に次の操作を行ってください。

   - DIMMを増設した場合は「ページングファイルサイズ」を設定し直してください。

     Windows 2000については29ページを、Windows NT 4.0については46ページを参照してください。

   - Windows 2000で運用しているExpressサーバを1CPUから2CPUに増設した場合は、デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバを「ACPIマルチプロセッサPC」に変更し、画面の指示に従って再起動後、システムのアップデート(33ページ)を行ってください。

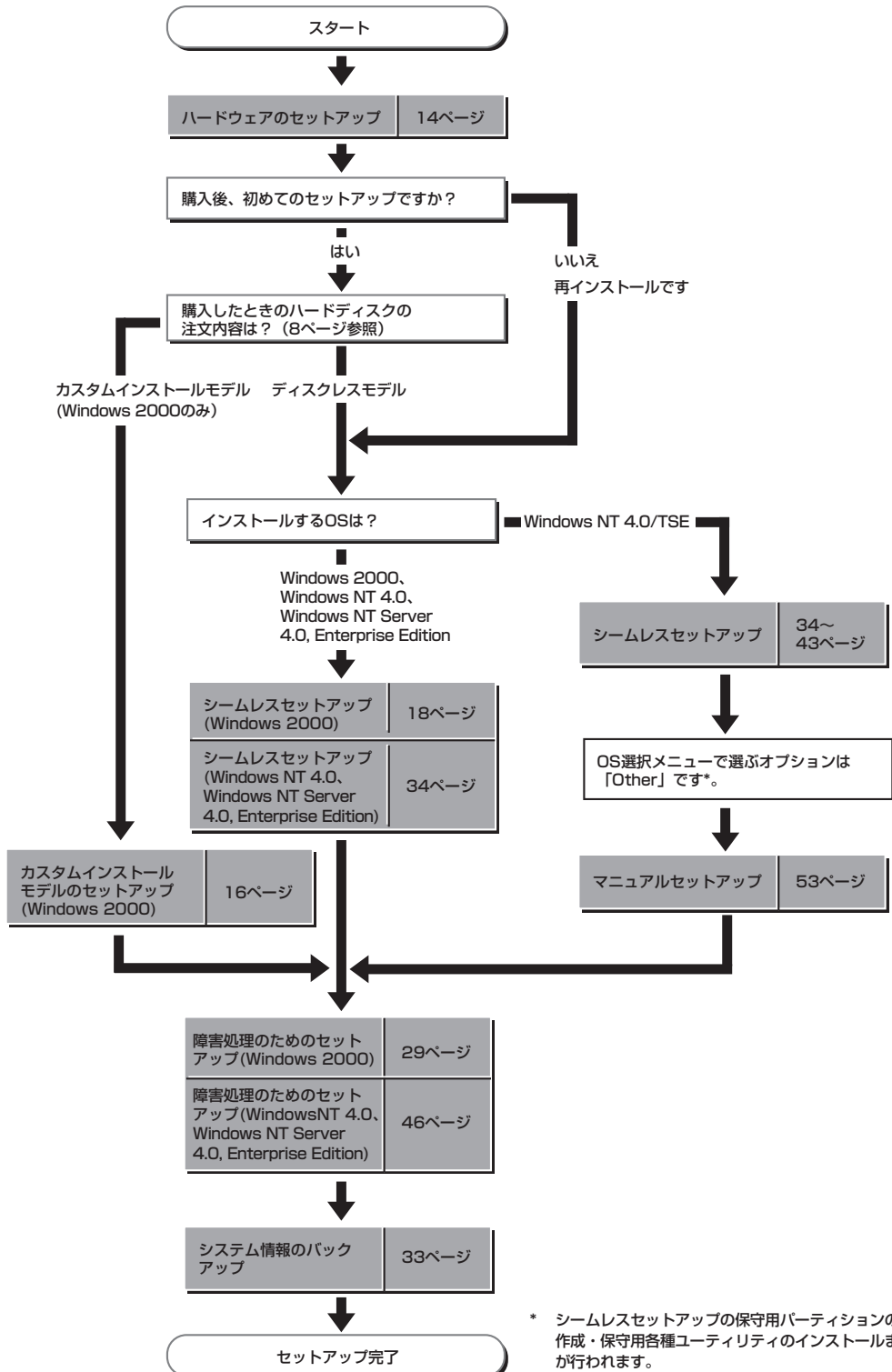
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置をExpressサーバに接続する。(→79ページ)
4. 添付の電源コードをExpressサーバと電源コンセントに接続する。(→79ページ)
5. Expressサーバの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   182ページに示す設定例を参考にしてください。

   重要

   使用するOSに合わせて正しく設定してください。BIOSのパラメータには、プラグ・アンド・プレイをサポートするかどうかなどの項目もあります。また、日付や時間が正しく設定されているか必ず確認してください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。

* シームレスセットアップの保守用パーティションの作成・保守用各種ユーティリティのインストールまでが行われます。

Windows 2000のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows 2000やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

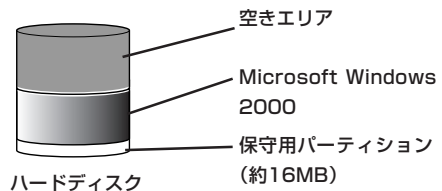
カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入されたExpressサーバのハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、Expressサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入されたExpressサーバで初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　～購入時の状態について～

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

Expressサーバのハードウェア構成（ハードディスクのパーティションサイズも含む）やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（ビルド・トゥ・オーダー）によって異なります。
右図は、標準的なExpressサーバのハードディスクの構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順でExpressサーバを起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   [Windows 2000 Server セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]ボタンをクリックする。

   [使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックする。

   以降、使用者名やプロダクトキーなどの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. ［完了］ボタンをクリックする。

   Expressサーバが再起動します。

6. 再起動後、システムにログオンする。

7. 27ページの手順14と手順15を参照して、PROSetⅡのインストールとネットワークドライバの詳細設定をする。

8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

9. 29ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。
    インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

    - ESMPRO/ServerAgent
    - エクスプレス通報サービス*
    - Power Cosole Plus*
    - Global Array Manager Server*
    - Global Array Manager Client*
    - 自動クリーンアップツール*
    - Array RecoveryTool
    - ESMPRO/UPSController（本ソフトウェアを購入された場合のみ）*
    - PowerChute *plus*（本ソフトウェアを購入された場合のみ）*

    上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

    重要

    カスタムセットアップで出荷された場合、インストールされているService Packのバージョンと、装置に添付されているService Packのバージョンが異なる場合があります。

    装置にインストールされているService Pack以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows 2000 RURx 対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。

    サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

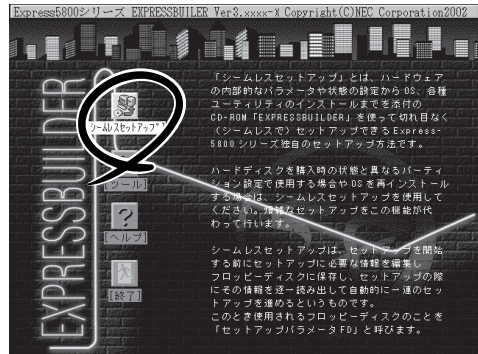
    [Express5800サイト「8番街」]　http://nec8.com/

11. 33ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressサーバをセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows NT 4.0 EE)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

  シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、Expressサーバのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressサーバをセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

  事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。Expressサーバの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降またはWindows XP/2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

  ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、241ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)

Windows NT 4.0については、この後の項を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、246ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

BIOSの設定について

Windows 2000をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能(プラグ・アンド・プレイやUSBインタフェースへの対応など)に関する設定項目があります。179ページを参照して設定してください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- **インストールを始める前にオプションの増設やExpressサーバ本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に29ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクの接続について

OSをインストールしないハードディスクは、OSをインストール後に接続してください。

ディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合について

- シームレスセットアップをする前に、ディスクアレイBIOSセットアップユーティリティを起動してアレイディスクの構成を設定しておいてください。アレイディスク構成の詳細な説明については、オプションに添付の説明書を参照してください。
- LANコンソールリダイレクション機能は、シームレスセットアップを行う前に必ず無効にしてください。使用したい場合は、シームレスセットアップ終了後に有効にしてください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

1000MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

1000MB	= インストールに必要なサイズ
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズx 1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

1000MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 2292MB

となります。

シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以下のように計算してください。

- Windows 2000 Service Packを適用しない場合
  「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「2000MB」のうち、どちらか大きい方
- Windows 2000 Service Packを適用する場合
  「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Server/Microsoft Windows 2000 Advanced Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。
インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「MAINTE_P」と表示されている領域について)

ディスク領域に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。

Service Packの適用について

Express5800シリーズでは、Service Packを適用することができます。本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

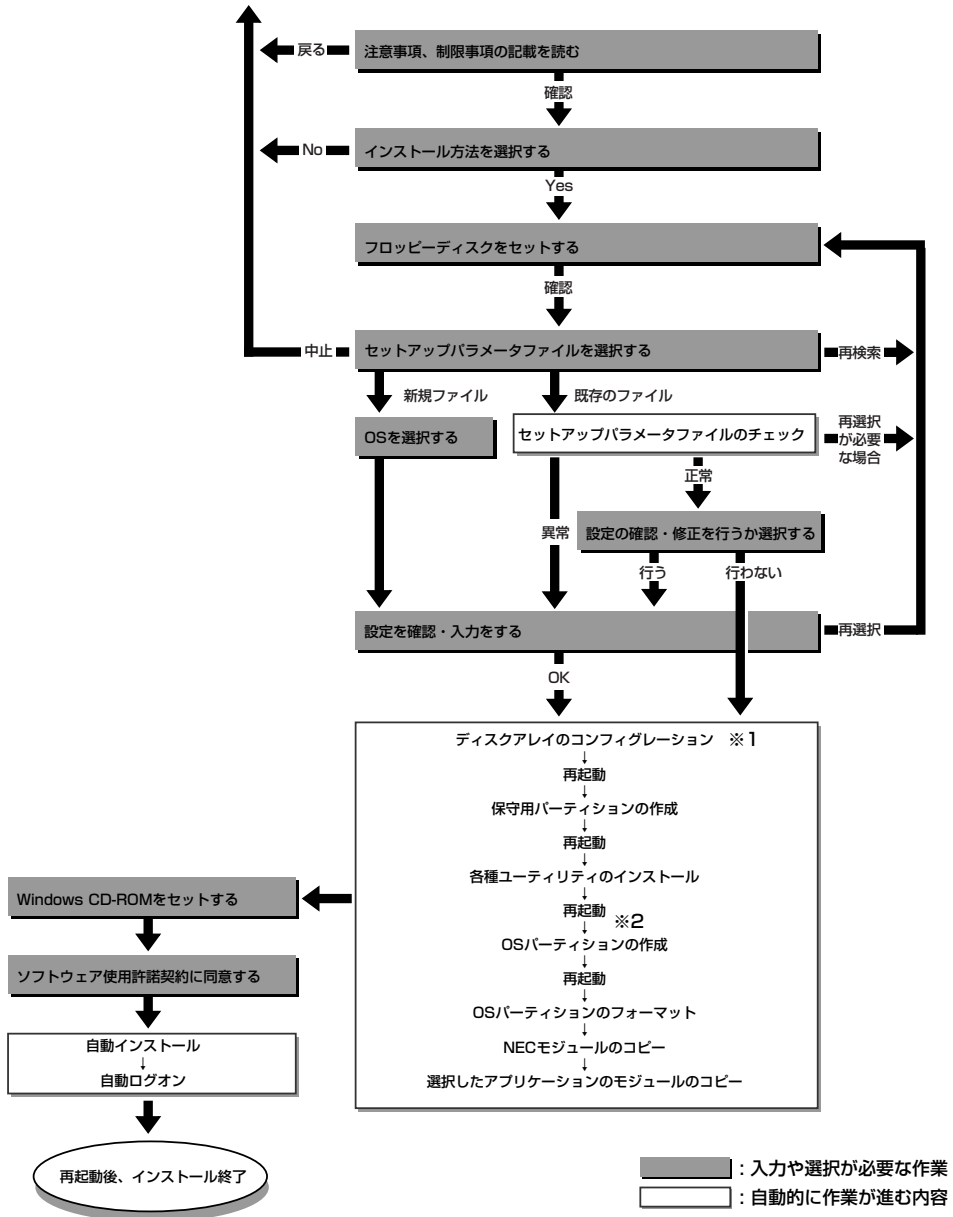
〔Express5800サイト「8番街」〕 **http://nec8.com/**

その他

装置に「Windows 2000 RUR2対応(Service Pack 2)差分FD」および「Windows 2000 RUR2対応(Service Pack 2)インストール手順書」が添付されている場合がありますが、本差分FDおよび手順書はご使用にならないでください。破棄するか、装置に添付されている他の媒体と異なった場所に保管してください。万一、ご使用になられても次のようなメッセージが表示され、セットアップは続行できません。

> セットアップメッセージ
> このWindows RURは、この装置には対応していません。
> ご使用の装置を確認してください。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。

※1　ディスクアレイコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータFDの作成時に「RAID新規作成」にチェックをした場合のみ。

※2　OSの選択で［その他］を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。
セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。

重要

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。**
- **Windows 2000の起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows 2000 Server/Microsoft Windows 2000 Advanced Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。

2. ExpressサーバのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。

3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. 表示言語を選択する。

   EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、言語選択メニューが現れます。この選択結果により使用するキーボードも自動的に設定されます。なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

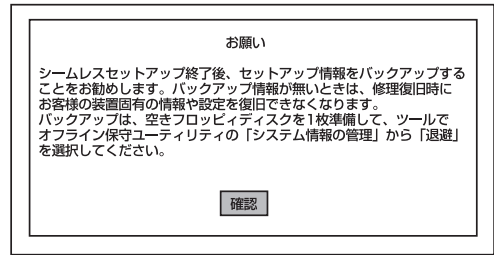
   しばらくすると「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

5. [シームレスセットアップ]をクリックする。

   「お願い」が表示されます。

6. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。

7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックする。

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

チェック

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

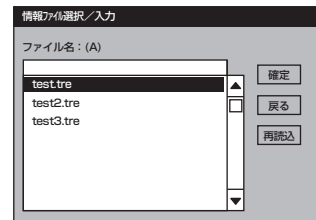
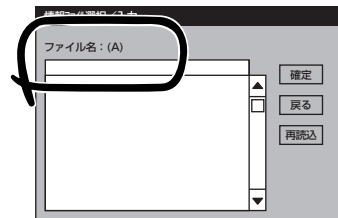
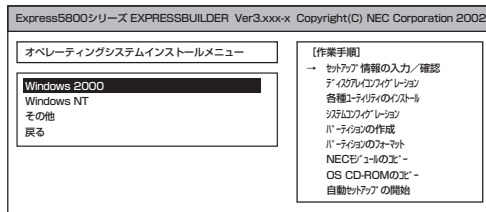
② 確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ｽｷｯﾌﾟ]ボタンをクリックする。

[確認]ボタンをクリック→手順8へ進む
[ｽｷｯﾌﾟ]ボタンをクリック→手順9へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

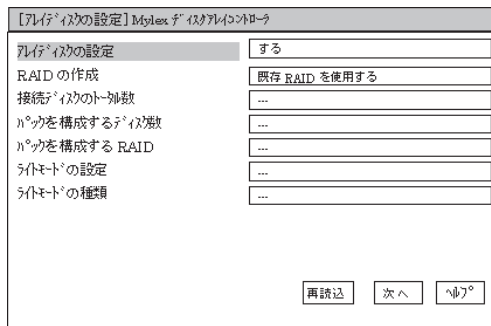
入力ボックスが表示されます。

② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、装置がサポートしているOSが表示されます。

③ リストボックスからインストールする[Windows 2000]を選択する。

8. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressサーバ本体にディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。「RAIDの作成」が「既存RAIDを使用する」に設定されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

[アレイディスクの設定] Mylex ディスクアレイコントローラ

アレイディスクの設定	する
RAID の作成	既存 RAID を使用する
接続ディスクのトータル数	---
パックを構成するディスク数	---
パックを構成する RAID	---
ライトモードの設定	---
ライトモードの種類	---

再読込　次へ　ヘルプ

次に、[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ]ボタンをクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

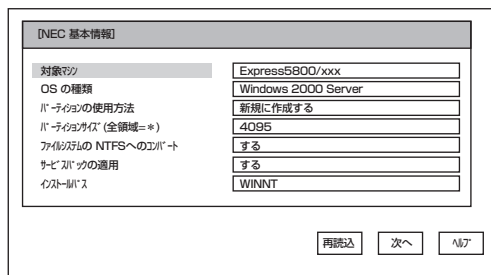
以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

[NEC 基本情報]

対象マシン	Express5800/xxx
OS の種類	Windows 2000 Server
パーティションの使用方法	新規に作成する
パーティションサイズ (全領域=＊)	4095
ファイルシステムの NTFSへのコンバート	する
サービスパックの適用	する
インストールパス	WINNT

再読込　次へ　ヘルプ

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(21ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に2000MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。

<次ページへ続く>

重要

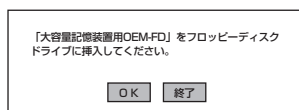
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- セットアップの途中で、Windows 2000をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある16MBの領域は、Express5800シリーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、16MBの領域を確保させたくない場合は、マニュアルセットアップでインストールを行ってください。シームレスセットアップでは削除できません。

ヒント

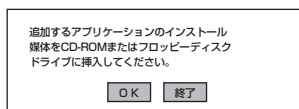
- [NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]ボタンをクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

9. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

   オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

10. 追加するアプリケーションをインストールする。

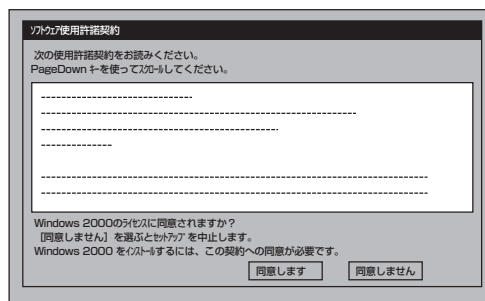
    シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

追加するアプリケーションのインストール
媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスク
ドライブに挿入してください。
ＯＫ　終了

11. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

    [ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約]画面が表示されます。

12. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンをクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。

13. NEC基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

① メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。

② メッセージに従ってWindows 2000 Service Pack 1以降のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

14. PROSetⅡをインストールする。

PROSetⅡは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。GigaEthernetの設定に必須です。必ずインストールしてください。

PROSetⅡを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSetⅡが必要になります。
PROSetⅡをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

① CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

② スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥RB31C¥HD1¥PROSet2¥IA32¥setup.exe」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSetII Setup]が起動します。

④ [Welcome]ウィンドウの[Next]ボタンをクリックする。

もし、「デジタル署名が見つかりませんでした」のダイアログメッセージが表示された場合は、「はい」を選択してください。

[Intel(R) PROSetII Setup]に[Setup Complete]ウィンドウが表示されます。

⑤ [Finish]ボタンをクリックする。

[Intel(R) PROSetII Setup]が終了します。

⑥ システムを再起動する。

15. ネットワークドライバの詳細設定をする。

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

① スタートメニューから[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックする。

② [コントロールパネル]ウィンドウで、[Intel(R)PROSetII]アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R)PROSetII]ダイアログボックスが表示されます。

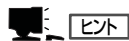
③ リスト中の「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」ネットワークドライバにマウスカーソルを合わせる。

④ [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUB の設定値と同じ値に設定する。

⑤ リスト中の「Intel(R) 82544GC based network connection」ネットワークドライバにマウスカーソルを合わせる。

⑥ [Link Config]タブをクリックし、SpeedとDuplexの値をHUBの設定値と同じ値に設定する。

⑦ [Intel(R)PROSetII]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ヒント

サービスの追加にて、[ネットワークモニタ] を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ] は、[ネットワークモニタ] をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

16. 標準で装備されているグラフィックスアクセラレータ用ドライバをアップデートする。

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、そのボードに添付されている説明書に従ってドライバをインストールしてください。

① CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

② スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥W2K」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

④ メッセージに従ってインストール作業を進める。

「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]を選択して、インストールを続けてください。

⑤ CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。

17. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

18. 29ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

19. 33ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

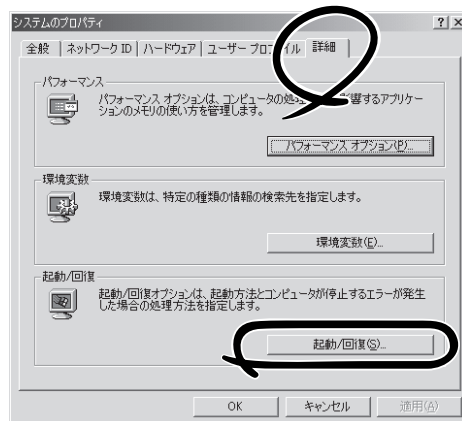
1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

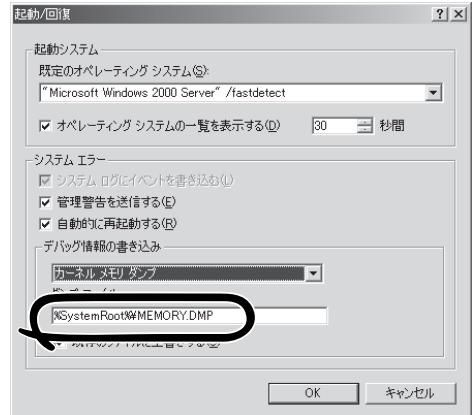
   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細]タブをクリックする。

4. [起動/回復]ボタンをクリックする。

5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは[カーネル メモリ ダンプ]を指定することを推奨します。
- Expressサーバに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリを増設した場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先の空き容量の確認を行ってください。なお、搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は2048MBとなります。空き容量は[2048MB+12MB]を目安にしてください。

6. [パフォーマンスオプション]ボタンをクリックする。

7. [仮想メモリ]ダイアログボックスの[変更]ボタンをクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(20ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK]ボタンをクリックする。

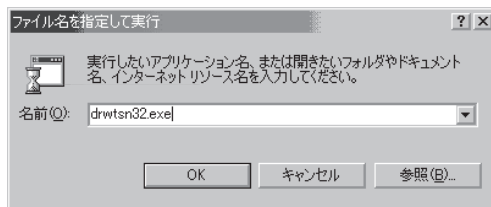
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

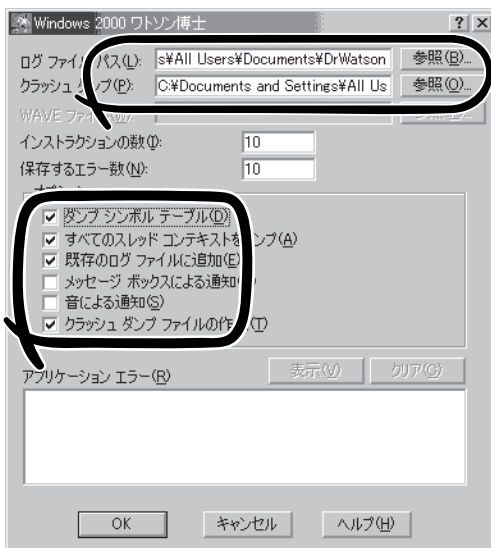
Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   [Windows 2000 ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   □　ダンプシンボルテーブル
   □　すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   □　既存のログファイルに追加
   □　クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]ボタンをクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]ボタンをクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]ボタンをクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]ボタンをクリックする。

7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

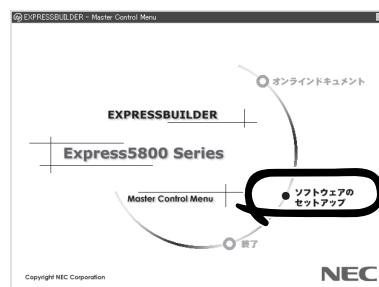
添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。
[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート　～Service Packの適用～

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- CPUを増設(シングルプロセッサからマルチプロセッサへ増設)した場合
- システム構成を変更した場合
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合

管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)で、システムにログインした後、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressサーバのCD-ROMドライブにセットしてください。
表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

Windows NT 4.0のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows NT 4.0やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressサーバをセットアップします。
「シームレスセットアップ」に関する説明やヒントは18ページを参照してください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版（以降、「Windows NT 4.0」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows NT® Server 4.0, Enterprise Edition 日本語版（以降、「Windows NT 4.0 EE」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows NT® Server 4.0, Terminal Server Edition（以降、「Windows NT 4.0/TSE」と呼ぶ）

Windows 2000については、この前の項を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、246ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

Windows NT 4.0・Windows NT 4.0 EEについて

Windows NT Server 4.0 日本語版（Windows NT 4.0）とWindows NT Server 4.0, Enterprise Edition 日本語版（Windows NT 4.0 EE）は、シームレスセットアップですべてインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- インストールを始める前にオプションの増設やExpressサーバ本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- Service Packについて

  シームレスセットアップでは「Service Pack 5」以降を適用することができます。Service Pack 5より前のバージョンを適用したい場合は、セットアップ情報ファイルの作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップを行い、Windows NT 4.0の起動後に、51ページを参照して「システムのアップデート」を行ってください。(装置に添付されていないService Packを適用する場合は、お客様でCD-ROMを用意してください。)
- シームレスセットアップを完了した後に46ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
- 複数枚ネットワークアダプタを装着している場合、アダプタごとのIPアドレスは、OSの起動後に設定してください。

MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されません。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

搭載メモリについて

3GBを超えるメモリを搭載したExpress5800にはWindows NT 4.0をインストールできません。

いったんメモリを取り外して3GB以下にしてからインストールしてください。

搭載しているメモリの容量は電源をONにした後、画面に表示されるメモリチェックのカウンタなどで確認してください。

ディスク構成について

■ 「EISAユーティリティ」と表示された領域について

ディスク領域に、「EISAユーティリティ」という領域が表示される場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

■ その他

- OSをインストールしないハードディスクは、OSをインストール後に接続してください。
- ディスクアドミニストレータを使用してミラー化されているパーティションにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、インスール完了後に再度ミラー化してください。

ミラー化あるいはミラーの解除は、ディスクアドミニストレータの[フォールトトレランス]メニューから行えます。

- ルータを越えたプライマリ ドメイン コントローラのバックアップドメインコントローラを作成する場合は、シームレスセットアップではなくマニュアルセットアップでインストールしてください。

ディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合について

- シームレスセットアップをする前に、ディスクアレイBIOSセットアップユーティリティを起動してアレイディスクの構成を設定しておいてください。アレイディスク構成の詳細な説明については、オプションに添付の説明書を参照してください。
- LANコンソールリダイレクション機能は、シームレスセットアップを行う前に必ず無効にしてください。使用したい場合は、シームレスセットアップ終了後に有効にしてください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

200MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

200MB	= インストールに必要なサイズ
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ + 12MB
ダンプファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要 **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために最低限必要なサイズです。「推奨」値以上の値を設定してください。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できません。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

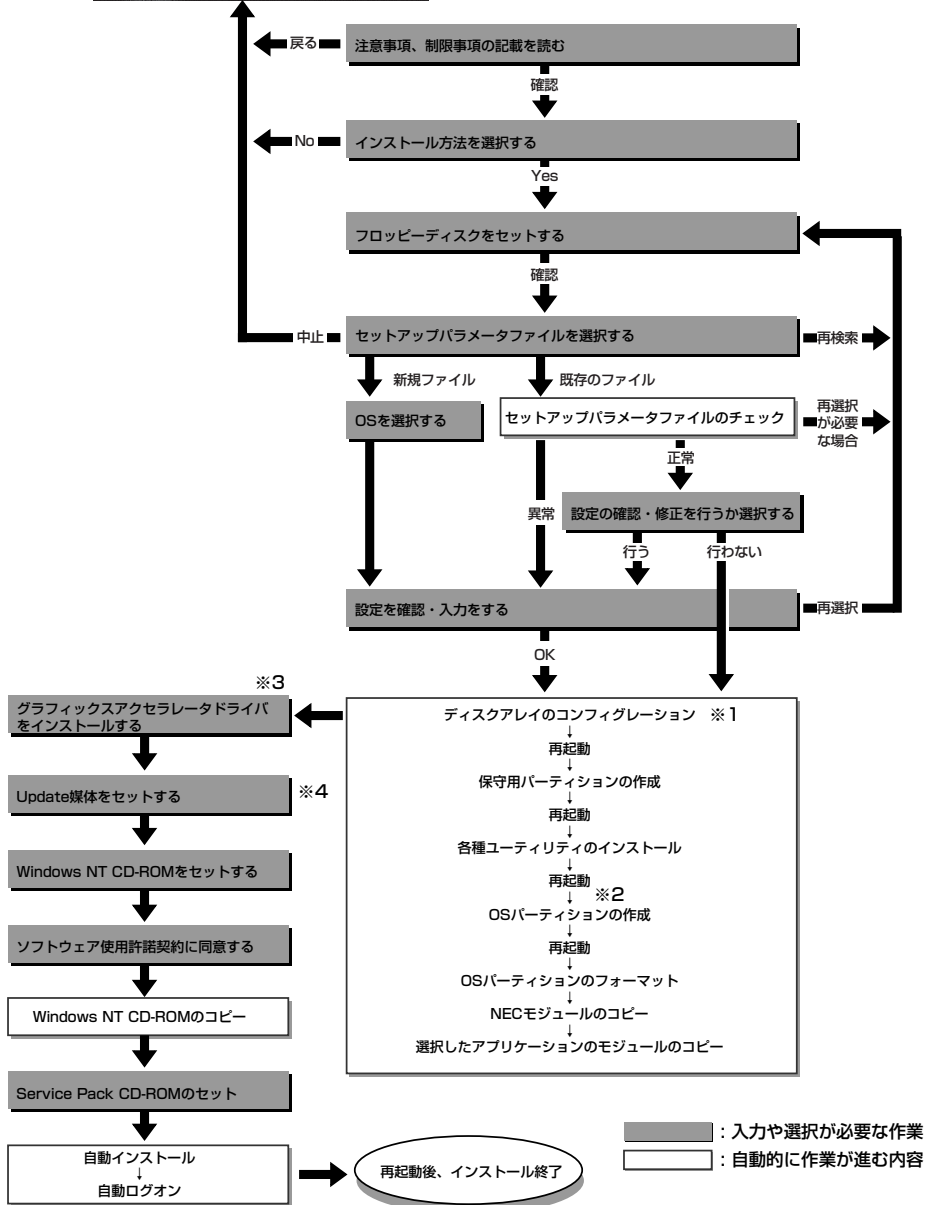
200MB + (512MB + 12MB) + (512MB + 12MB) = 1248MB

となります。

Windows NT 4.0/TSEについて

Windows NT Server 4.0, Terminal Server Edition(Windows NT 4.0/TSE)に関する注意事項については、「マニュアルセットアップ(52ページ以降)」で説明しています。
また、Windows NT 4.0/TSEをシームレスセットアップでインストールする場合は、ディスクアレイの設定から保守用パーティションの作成までをシームレスセットアップで行います。以降のインストールやセットアップについては、「マニュアルセットアップ」で説明しています。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。

※1　ディスクアレイコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータFDの作成時に「RAID新規作成」にチェックをした場合のみ。
※2　OSの選択で［その他］を選択したときはここで終了する。
※3　オプションのグラフィックスアクセラレータボードを搭載しているときのみ。
※4　インストール中にUpdate媒体の適用を指定したときのみ。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。
セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。

重要

Windows NT 4.0をインストールする場合について

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。**
- **Windows NT 4.0の起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネットワークアダプタドライバの変更または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows NT 4.0 Server/Microsoft Windows NT 4.0 Server, Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**
- **Service Packについて**

  シームレスセットアップでは「Service Pack 5」以降を適用することができます。Service Pack 5より前のバージョンを適用したい場合は、セットアップ情報ファイルの作成時に「サービスパックの適用」の項目で「しない」を選択してセットアップを行い、Windows NT 4.0の起動後に、51ページを参照して「システムのアップデート」を行ってください。(装置に添付されていないService Packを適用する場合は、お客様でCD-ROMを用意してください。)

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. ExpressサーバのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. 表示言語を選択する。

   EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、言語選択メニューが現れます。この選択結果により使用するキーボードも自動的に設定されます。なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

   しばらくすると「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

```
Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2002
[言語選択]
日本語
英語
```

5. ［シームレスセットアップ］をクリックする。

   「お願い」が表示されます。

6. 記載内容をよく読んでから［確認］ボタンをクリックする。

   「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。

7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、［確認］ボタンをクリックする。

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク（ブランクディスク）をフロッピーディスクドライブにセットし、［確認］ボタンをクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

［設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合］

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

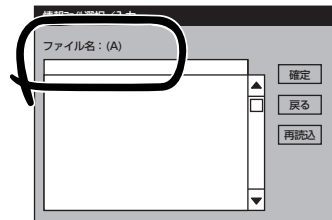
選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合（たとえばExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど）、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は［確認］ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリックする。

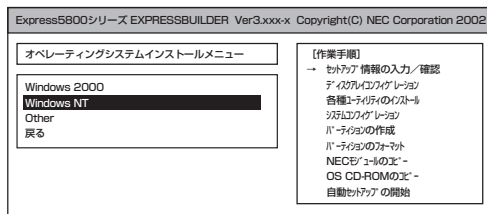
［確認］ボタンをクリック→手順8へ進む
［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリック→ 手順9へ進む

［ブランクディスクをセットした場合］

① ［ファイル名:(A)］の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

② ファイル名を入力する。

［オペレーティングシステムインストールメニュー］が表示されます。

③ リストボックスからインストールするOSを選択する。

「Windows NT 4.0」または「Windows NT 4.0 EE」をインストールする場合は、［WindowsNT］を選択します。
「Windows NT 4.0/TSE」をインストールする場合は、［その他］を選択します。

8. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressサーバ本体にディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合は、［アレイディスクの設定］画面が表示されます。「RAIDの作成」が「既存RAIDを使用する」に設定されていることを確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

次に、[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります)。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- OSをインストールするパーティションは必要最小限以上のサイズを確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- 4GBを超えるパーティションサイズを指定したとき、「Service Pack 5」以降は必須です。この場合、Windows NTを起動後もアンインストールできません。また、[ユーザ情報]画面の[会社名]は必ず入力してください。

ヒント

- [NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]ボタンをクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

9. ディスクアレイシステムを構築する。

手順8の[アレイディスクの設定]画面で設定した内容に従ってディスクアレイシステムを構築します。ディスクアレイコントローラボードを検出できなかったときや、ディスクアレイシステムを構築する設定をしなかったときは、次のステップへ進みます。

ディスクアレイシステムは次の手順で自動的に構築されます。

① RAIDレベルを自動で設定します。

② システムドライブを初期化します。

重要

オート設定(RAIDレベルの自動設定)では、SCSIデータ転送パラメータを設定しません。変更する必要があるときは、「ツール」の「ディスクアレイのコンフィグレーション」で設定してください。

10. 保守用パーティションを作成する。

保守用パーティションは次の手順で自動的に作成されます。

> ヒント
>
> すでに保守用パーティションが存在する場合、保守用パーティションの作成はスキップします。

① 保守用パーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。

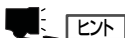
② 保守用パーティションをフォーマットします。

③ 保守用の各種ユーティリティをインストールします。終了後、自動的に再起動します。

<手順7[ブランクディスクをセットした場合]の③で[その他]を選択した場合は以上でシームレスセットアップを終了します。以降は、52ページの「マニュアルセットアップ」を参照してオペレーティングシステムをインストールしてください。[WindowsNT]を選択した場合は、この後の手順を続けてください。>

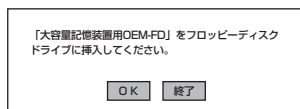
11. OS領域を作成する。

OS領域は次の手順で自動的に作成されます。

① OS用のパーティションを作成します。終了後、自動的に再起動します。

> ヒント
>
> [NEC基本情報]画面の「ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの使用方法」メニューで「既存ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝを使用する」を選択していた場合、パーティションの作成は行いません。

② OS用パーティションをフォーマットします。

12. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

13. Update媒体のモジュールをコピーする。

メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

> ヒント
>
> [Update媒体の適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。

> チェック
>
> 「Update媒体」とは、弊社がWebなどから発行する不具合解消用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

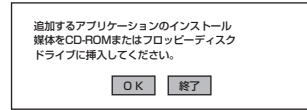
シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

追加するアプリケーションのインストール媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスクドライブに挿入してください。

OK 終了

14. 追加するアプリケーションをインストールする。

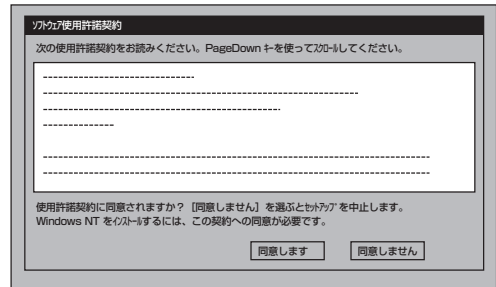
Microsoft Windows NT Version4.0
Server Disk1 CD-ROMをドライブに挿入してください。

OK

15. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、Windows NT CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約]画面が表示されます。

16. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows NT 4.0はインストールされません。

17. メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows NT CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。

18. Service Pack 5以降のインストールを行う指定をしている場合は、メッセージに従って指定したバージョンのService Pack CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows NT 4.0と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

チェック

Windows NT 4.0 へはローカルのadministratorとしてログオンします。バックアップドメインコントローラの場合は、自動的にログオンしません。

19. ネットワークドライバの詳細設定をする。

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

① スタートメニューから[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

② [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。

[ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。

③ [アダプタ]タブをクリックし、「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」を選択し、[プロパティ]をクリックする。

ネットワークアダプタの[Intel(R)PROSetII]ダイアログボックスが表示されます。

④ [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定に合わせる。

⑤ 続けて、「Intel(R) PRO/1000 XT Server Adapter」をクリックする。

⑥ [Link Config]タブをクリックし、SpeedとDuplexの値を同様に設定する。

⑦ [OK]をクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除をしてください。[ネットワーク]ダイアログボックスから[プロトコル]タブをクリックしてプロトコルを設定する画面を表示させて行います。

20. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

21. 46ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

22. 33ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

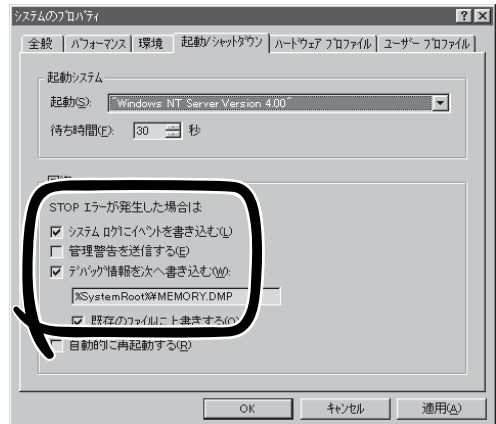
3. [起動/シャットダウン]タブをクリックする。

4. [システムログにイベントを書き込む]をチェックする。

5. [デバッグ情報を次へ書き込む]をチェックする。

6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

   <Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

   D:¥MEMORY.DMP

重要

- **Expressサーバに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。**
- **メモリを増設した場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先の空き容量を確認してください。**

7. [パフォーマンス]タブをクリックする。

8. [変更]ボタンをクリックする。

[仮想メモリ]ダイアログボックスが表示されます。

9. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。

重要

- **必ずOSパーティションに「推奨」値以上のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できません。**
- **「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(37ページ)」を参照してください。**
- **障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。**
- **メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。**

10. [OK]ボタンをクリックする。

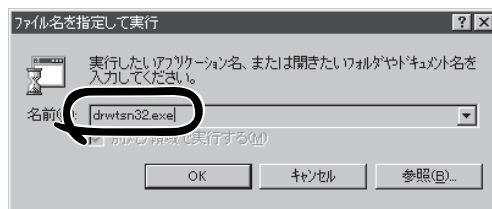
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

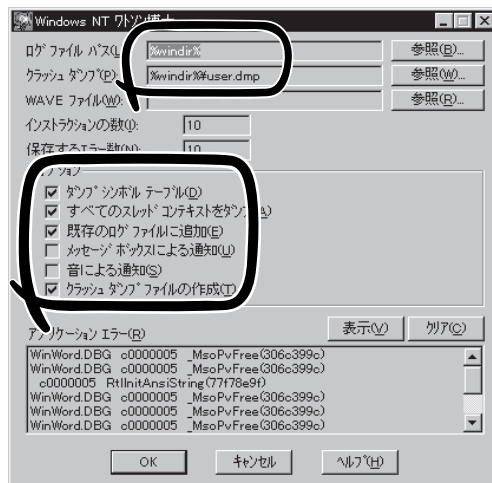
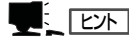
Windows NTワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

[Windows NT ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. ［クラッシュダンプ］ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. ［オプション］ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

□ ダンプシンボルテーブル
□ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
□ 既存のログファイルに追加
□ クラッシュダンプファイルの作成

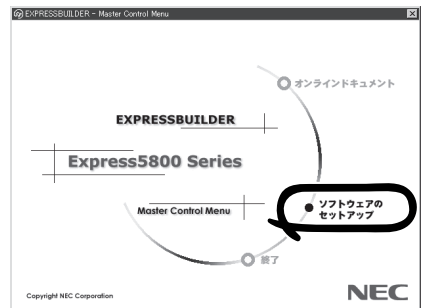
それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. ［OK］ボタンをクリックする。

システム修復情報の更新

オペレーティングシステムのデータが破損した場合にそなえて、システムの修復が行えるようにするために、システム構成を変更したら、必ず「システムのアップデート」とともに「システム修復情報の更新」をしてください。システム修復情報にはコンフィグレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。

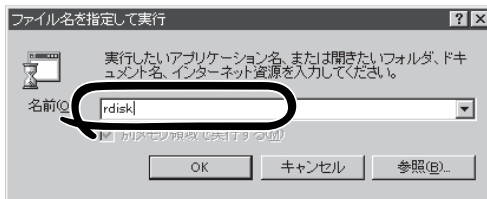
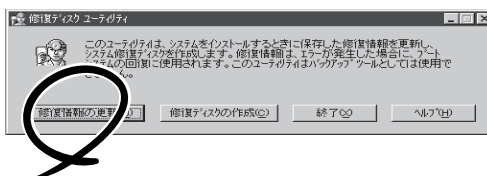
システム修復情報はフロッピーディスクにも保存できますが、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合、1枚のフロッピーディスクでは保存しきれなくなることがあります。
この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。
Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報をみて、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。

システムの修復を行う場合に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクをセットするよう要求される場合があります。
EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」のソフトウェアのセットアップ］ー［OEMディスクの作成］を選択してディスクを作成してください（すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません）。
詳しくは52ページを参照してください。

重要

- **「システム修復情報の更新」はシステムに障害が発生し、起動しなくなったときにシステムが起動できるように復旧することを目的としています。「システム修復情報の更新」はシステムのバックアップを目的としたものではありません。**
- **運用中にシステムやコンポーネントを変更した場合にも以下の手順で「システム修復情報の更新」を行ってください。**

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「rdisk.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   [修復ディスクユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [修復情報の更新]ボタンをクリックする。

4. [はい]ボタンをクリックする。

   「システム修復ディスクを作成しますか?」というメッセージが表示されます。

5. [いいえ]ボタンをクリックする。

6. [終了]ボタンをクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

OSインストール中にネットワークモニタをインストールする場合

ネットワークドライバの選択が完了し、メッセージの指示に従ってインストールを行っていくと、サービスを追加するウィンドウが表示されます。

1. [一覧から選択]をクリックする。

   [ネットワークサービス]の一覧が表示されます。

2. [ネットワークサービス]の一覧から、[ネットワークモニタツールとエージェント]を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

   以降、メッセージの指示に従って、OSのインストールを続行してください。

OSインストール後にネットワークモニタをインストールする場合

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。

   [ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。

3. [サービス]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックする。

   [ネットワークサービスの選択]ダイアログボックスが表示されます。

4. [ネットワークサービス]の一覧から、[ネットワークモニタツールとエージェント]を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

   [WindowsNT セットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

5. Windows NT CD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

   ただし、CD-ROMドライブのドライブ文字が正しく指定されていない場合は、正しい値に変更してください。

   [ネットワーク]ダイアログボックスに戻ります。

6. [閉じる]ボタンクリックし、システムを再起動する。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール(共通)]をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。

[スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。

シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート　～Service Packの適用～

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合

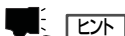
次の手順に従ってシステムをアップデートしてください。

重要

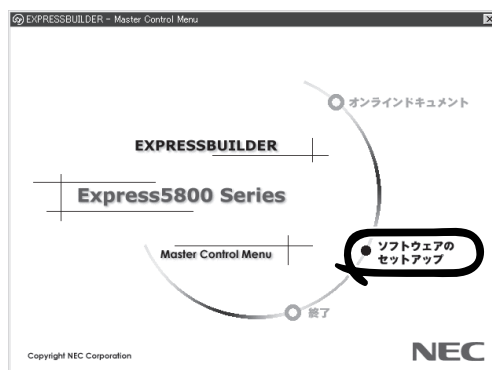
- **システムのアップデートを行った場合は、必ず「システム修復情報の更新」を行ってください。**
- **Service Packは、EXPRESSBUILDERには含まれていません。装置に添付されていないService Packを適用する場合はお客様でご用意ください。**

1. 管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）で、システムにログインする。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressサーバのCD-ROMドライブにセットする。
3. ［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、メニューから［システムのアップデート］をクリックする。

   Service Packの選択をするダイアログボックスが表示されます。

   ヒント

   ダイアログボックス内で右クリックすると表示されるポップアップメニューからも選択できます。

4. 適用するService Packを選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
詳しくは33ページをご覧ください。

マニュアルセットアップ　～Windows NT 4.0/TSEのセットアップ～

ここでは、「Microsoft Windows NT Server 4.0, Terminal Server Edition(以降、「Windows NT 4.0/TSE」と呼ぶ)をセットアップする場合の手順について説明します。
Microsoft Windows NT Server 4.0日本語版またはMicrosoft Windows NT Server 4.0, Enterprise Edition日本語版をセットアップする場合は、シームレスセットアップを使うことを強くお勧めします。詳しくは34ページの説明をご覧ください。
シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順については、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows NT 4.0 Server/Microsoft Windows NT 4.0 Server,Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

サポートディスクを用意してください

ここで説明する「マニュアルセットアップ」では、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

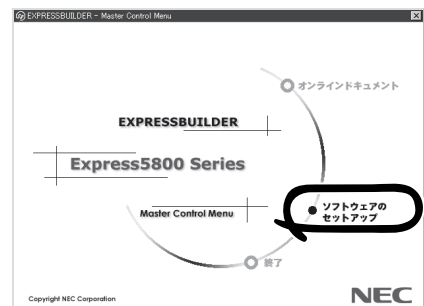
「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows NT 4.0やWindows NT 4.0/EE、Windows NT 4.0/TSEのインストールで必要となる本体標準装備のネットワークやディスプレイ用のドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前にWindows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを3枚用意する。
2. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
3. ExpressサーバのCD- ROMドライブに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
6. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Expressサーバの他にWindows 2000/XP、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からWindows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

Windows NT 4.0/TSEをセットアップする方法について説明します。

セットアップを始める前に次の注意事項をよく読んでください。

ディスクアレイの設定や保守用パーティションの作成について

ディスクアレイの設定や保守用パーティションの作成を含むセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を利用することをお勧めします。シームレスセットアップでこれらのセットアップを完了後、Windows NT 4.0/TSEのインストールに進むようメッセージが表示されます。メッセージの表示後、ここで説明する手順に従ってWindows NT 4.0/TSEをインストールすることができます。

その他

34ページの「Windows NT 4.0・Windows NT 4.0 EEについて」の注意事項も併せてご覧ください。

インストールに必要なもの

Windows NT 4.0/TSEをインストールするために次のディスクと説明書を用意してください。

- □ EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- □ Microsoft Windows NT Server 4.0, Terminal Server Edition(CD-ROMとセットアップディスク)
- □ Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER(前ページ参照)
- □ ユーザーズガイド(本書)

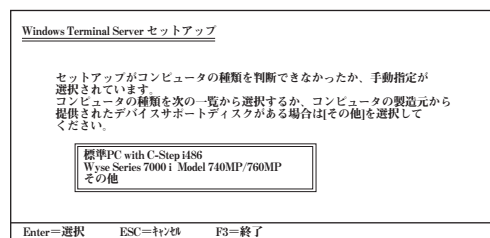
システムの電源ON

システムの電源をONにし、Windows NT 4.0/TSE CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows NT 4.0/TSE HALの置き換え

1. システムの電源ON後、画面が以下のどちらかの状態のときに<F5>キーと<F6>キーを押す。
   - 「セットアップはコンピュータのハード構成を検査しています」の表示中
   - 青一色の画面の表示中

   「セットアップがコンピュータの種類を判断できなかったか．．．」というメッセージと選択画面が表示されます。

   選択画面が表示されなかった場合は、<F5>キーが正しく押されていません。<F3>キーを押し、セットアップを終了し、もう1度システムの電源ONから始めてください。

2. カーソルキーで[その他]を選び、<Enter>キーを押す。

   製造元提供のハードウェアサポートディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを促すメッセージが表示されます。

3. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #1」をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

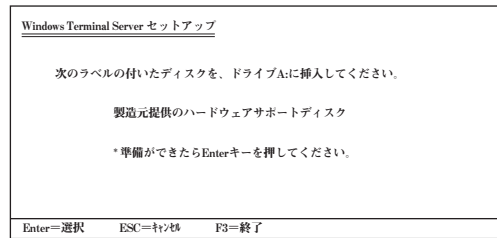
   コンピュータの種類が表示されます。

Windows Terminal Server セットアップ

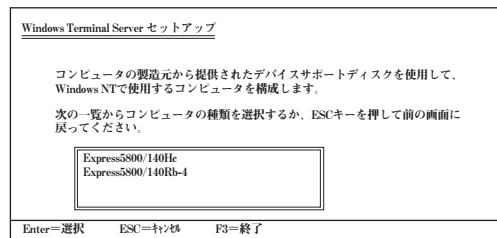
次のラベルの付いたディスクを、ドライブA:に挿入してください。

製造元提供のハードウェアサポートディスク

* 準備ができたらEnterキーを押してください。

Enter=選択　ESC=ｷｬﾝｾﾙ　F3=終了

4. 使用しているコンピュータを選び<Enter>キーを押す。

ヒント

リストには一度に4項目までしか表示されません。選択したい項目が表示されていない場合は、カーソルキーでリストをスクロールさせてから選択してください。

大容量記憶装置のセットアップ

Windows NT 4.0/TSE HALの置き換え後、「セットアップはシステムにインストールされている1つ以上の大容量記憶装置の種類を判断できませんでした」というメッセージと選択画面が表示されます。選択画面が表示されなかった場合は、<F6>キーが正しく押されていません。<F3>キーを押してセットアップを終了し、もう一度システムの電源をONし直してから始めてください。

Windows Terminal Server セットアップ

セットアップはシステムにインストールされている1つ以上の大容量記憶装置の種類を判断できませんでした。または、アダプタの手動指定が選択されています。次の大容量記憶装置をサポートするドライバを読み込みます：

・Windows Terminal Serverで使用するSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、特殊なディスクコントローラを追加指定する場合、および大容量記憶装置の製造元から提供されたデバイスサポートディスクがある場合はSを押してください。

・大容量記憶装置の製造元から提供されたデバイスサポートディスクがない場合、またはWindows Terminal Serverで使用する大容量記憶装置を追加指定しない場合はEnterキーを押してください。

S=デバイスの追加指定　Enter=続行　F3=終了

1. <S>キーを押す。

Windows Terminal Server セットアップ

セットアップはシステムにインストールされている1つ以上の大容量記憶装置の種類を判断できませんでした。または、アダプタの手動指定が選択されています。次の大容量記憶装置をサポートするドライバを読み込みます：

・Windows Terminal Serverで使用するSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、特殊なディスクコントローラを追加指定する場合、および大容量記憶装置の製造元から提供されたデバイスサポートディスクがある場合はSを押してください。

・大容量記憶装置の製造元から提供されたデバイスサポートディスクがない場合、またはWindows Terminal Serverで使用する大容量記憶装置を追加指定しない場合はEnterキーを押してください。

S=デバイスの追加指定　Enter=続行　F3=終了

2. ［その他］を選び、<Enter>キーを押す。

3. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #1」をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

   SCSIアダプタのリストが表示されます。

4. ［Adaptec Ultra160/m Family PCI SCSI Controller］を選び、<Enter>キーを押す。

   手順1の画面に戻ります。

5. 装置にディスクアレイコントローラ（N8103-53A/64）を装着している場合は、手順1～3を繰り返し、SCSIアダプタリストから以下を選択し、<Enter>キーを押す。

   N8103-53A接続時:　［Mylex AcceleRAID 160/352 Disk Array Controller］
   N8103-64接続時:　［MegaRAID NT4.0 RAID Driver］

   以降の作業はメッセージに従ってください。

その他の設定

大容量記憶装置のセットアップ完了後は、メッセージに従って作業を続けてください。
インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。
作業を続けていくとWindows NT 4.0/TSEのファイルをインストールするディレクトリ名を入力する画面が表示されます。ディレクトリ名を入力して<Enter>キーを押します。
Windows NT 4.0/TSEのファイルがハードディスクにコピーされます。

Windows NT 4.0/TSEセットアップ画面での設定

1. ファイルのコピーを終了後、メッセージに従ってフロッピーディスクとCD-ROMを取り出す。

   システムを再起動すると、［ディスクの挿入］ダイアログボックスが表示されます。

2. Windows NT 4.0/TSE CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

3. CD-ROMドライブのアクセスランプの点滅が終わってから、［OK］ボタンをクリックする。

   以降は、画面の指示に従いセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ヒント

- セットアップの途中で「システム修復ディスク」を作成する画面が表示されます。「システム修復ディスク」は、重要なシステムファイルが損傷した場合にファイルを復元するために使います。

  「システム修復ディスク」は、セットアップ中でもセットアップ後でも作成できます。セットアップ中に「システム修復ディスク」を作成する場合は、この画面で[はい]ボタンをクリックします。セットアップの後の段階でフロッピーディスクを挿入するように求めるメッセージが表示されます。3.5インチフロッピーディスクを1枚用意してください。セットアップ後に作成する場合は、「システム修復情報の更新」(48ページ)を参照してください。

- セットアップの途中でネットワークドライバのインストールを行うステップがあります。セットアップが完了した後でもインストールすることができます。この後の「ドライバのインストールと詳細設定」でセットアップ中でのネットワークドライバのインストール方法とセットアップ後のインストール方法を説明しています。参照してください。

システムのアップデート

システムを再起動後、システムをアップデートしてください。
Windows NT 4.0/TSE用のService Pack4を適用した後、51ページの「システムのアップデート」に従ってシステムをアップデートしてください。

重要

- **Terminal Server Edition用のService Packを適用してください。Windows NT 4.0用Service Packは適用しないでください。**
- **システム構成を変更した場合も再起動する前に必ずシステムのアップデートをしてください。(システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は [いいえ]ボタンをクリックし、システムをアップデートしてください。)**
- **「システム修復ディスク」を使用してシステムを修復した場合も必ずシステムをアップデートしてください。**

ドライバのインストールと詳細設定

OSのセットアップの後、各種のドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

ネットワークドライバ

標準装備のネットワークのドライバはWindows NT 4.0/TSEのインストール中にインストールすることをお勧めします(Windows NT 4.0/TSEをインストールした後でもインストールできますが、インストール後にシステムのアップデート(51ページ)をやり直さなければ正しく動作しません)。

オプションのネットワークボードのドライバについてはこの後の「オプションのネットワークボードのドライバ」を参照して、Windows NT 4.0/TSEのインストールが終了した後にインストールしてください。

- **標準装備のネットワークドライバ**

標準でネットワークポートを2つ用意しています(装置背面にあります)。このネットワークポートを使用するために次の手順に従って専用のネットワークドライバをインストールします。

ドライバをインストールする際には、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です。52ページを参照して作成してください(すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません)。

<OSのインストール中にネットワークドライバをインストールする場合>

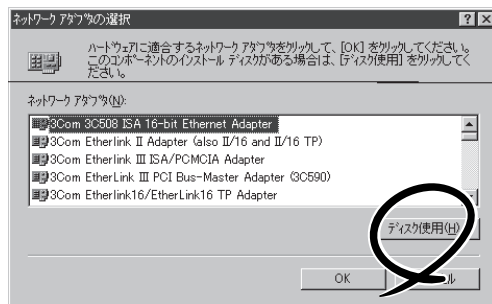
Windows NT 4.0/TSEのインストール中に「[検索開始]をクリックするとネットワークアダプタの検索を開始します。」というメッセージの入ったダイアログボックスが表示されます。

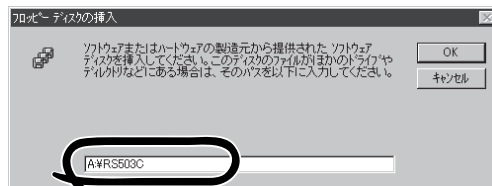
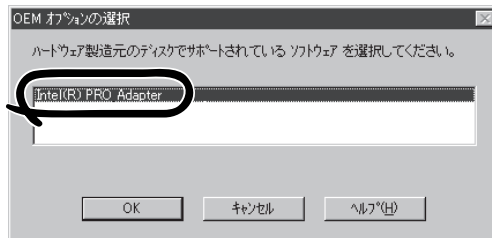
1. [一覧から選択]ボタンをクリックする。

   [ネットワークアダプタの選択]ダイアログボックスが表示されます。

2. [ディスク使用]ボタンをクリックする。

   [フロッピーディスクの挿入]ダイアログボックスが表示されます。

3. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。

4. 「A:¥RS503C」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   [OEMオプションの選択]ダイアログボックスが表示されます。

5. [Intel(R) PRO Adapter]をクリックし、[OK]ボタンをクリックする。

6. [一覧から選択]をクリックする。

   [ネットワークアダプタの選択]ダイアログボックスが表示されます。

7. [ディスク使用]をクリックする。

   [フロッピーディスクの挿入]ダイアログボックスが表示されます。

8. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #3」をフロッピーディスクドライブにセットする。

9. 「A:¥RB31C」と入力し、[OK]をクリックする。

[OEM オプションの選択]ダイアログボックスが表示されます。

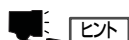
10. [Intel(R) PRO/1000 Adapter]をクリックし、[OK]をクリックする。

11. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブに再セットし、[次へ]をクリックする。

12. [セットアップメッセージ]ダイアログボックスが表示されるまで、[次へ]を何回かクリックする。

13. 「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER #3」をフロッピーディスクドライブに再セットし、[OK]をクリックする。

14. [Intel(R) PROSetⅡ]ダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックする。

以降、設定するプロトコルやサービスに従ってください。

ヒント

サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、49ページを参照してください。

重要

インストールした2つのネットワークドライバは、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。OSのインストール後に、[コントロールパネル]の[ネットワーク]をダブルクリックした後、ネットワークドライバの[Intel(R)PROSetII]ダイアログボックスを表示させ、Adapter別に次の画面を表示させてSpeedとDuplexの値をそれぞれ HUBの設定値と同じ値に設定してください。

- **Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)**

  [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed&Duplex]で設定する。

- **Intel(R) PRO/1000 XT Server Adapter**

  [Link Config]タブをクリックした画面内で設定する。

<OSのインストール後にネットワークドライバを削除後、再インストールする場合>

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。

[ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。

3. [アダプタ]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックする。

[ネットワークアダプタの選択]ダイアログボックスが表示されます。

4. [ディスク使用]ボタンをクリックする。

[フロッピーディスクの挿入]ダイアログボックスが表示されます。

5. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。

6. 「A:¥RS503C」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   [OEMオプションの選択]ダイアログボックスが表示されます。

7. [Intel(R) PRO Adapter]をクリックし、[OK]ボタンをクリックする。

   [ネットワーク]ダイアログボックスに戻ります。

8. 再度[追加]をクリックする。

   [ネットワークアダプタの選択]ダイアログボックスが表示されます。

9. [ディスク使用]をクリックする。

   [フロッピーディスクの挿入]ダイアログボックスが表示されます。

10. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #3」をフロッピーディスクドライブにセットする。

11. 「A:¥RB31C」と入力し、[OK]をクリックする。

   [OEM オプションの選択]ダイアログボックスが表示されます。

12. [Intel(R)PRO/1000 Adapter]をクリックし、[OK]をクリックする。

   [ネットワーク]ダイアログボックスに戻り、[Intel(R) PROSet Ⅱ]ダイアログボックスが表示されます。

13. [OK]をクリックする。

14. 「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」を選択し、[プロパティ]をクリックする。

   ネットワークアダプタの[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。

15. [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed&Duplex]をHUBの設定に合わせる。

16. 続けて、「Intel(R) PRO/1000 XT Server Adapte」をクリックする。

17. [Link Config]タブをクリックし、SpeedとDuplexの値を同様に設定する。

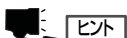
18. [OK]をクリックする。

19. [閉じる]をクリックする。

   プロトコルの種類などによっては、ここでネットワーク情報の入力が必要になります。

20. ネットワークアダプタのインストール終了後、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #3」をフロッピーディスクドライブから取り出す。

21. [ネットワーク設定の変更]ウィンドウで[はい]をクリックし、システムを再起動する。

22. 51ページの「システムのアップデート」を参照して、システムをアップデートする。

> ヒント
>
> ネットワークドライバのインストール後、[ネットワークモニタ]をインストールすることをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、49ページを参照してください。

導入編

- **オプションのネットワークドライバ**

  オプションのネットワークボード(LANボード)を使用している場合は、ボードに添付されている説明書を参照してドライバをインストールしてください。

グラフィックスアクセラレータドライバ

標準で装備されているグラフィックスアクセラレータを使われる場合は、以下の手順に従ってドライバをインストールしてください。オプションのグラフィックスアクセラレータボードを搭載して使われる場合は、そのボードに添付の説明書に従ってドライバをインストールしてください。

重要　**修復プロセスを使用してシステムを修復した場合も再度ドライバをインストールしてください。**

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューの[プログラム]から[Windows NTエクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥NT4¥DISK1」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。
4. メッセージに従ってインストール作業を進める。

   途中で「ati2mpad.sys」のファイルの格納先の入力を要求されます。
5. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥NT4¥DISK2」と指定する。

   同様に「atipuixx.dll」のファイルの格納先の入力を要求されます。
6. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥NT4¥DISK3」と指定する。
7. CD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。

インストール完了後の作業

以上でインストールとセットアップは完了です。すべてのセットアップが完了したら、次のセットアップを行ってください。

- 障害処理のためのセットアップ(46ページ)
- 管理ユーティリティのインストール(50ページ)
- システム情報のバックアップ(33ページ)